

第 98 回米国内分泌学会にてストレスと女性ホルモンに関する研究を発表しました (2016/4/1-4)

テーマ：ストレスと女性ホルモン

場所：Massachusetts Convention Center (Boston)

災害産婦人科学分野の研究の一つである「災害ストレスと婦人科疾患」について、当研究所の三木康宏 講師（災害医学研究部門 災害産婦人科学分野）が、世界最大の内分泌学会である米国内分泌学会にて発表しました（下記）。

演題：Effect of intratumoral cortisol on aromatase expression in cancer stromal cells of endometrial carcinoma（和訳：子宮内膜癌間質細胞におけるコルチゾールのアロマターゼ発現におよぼす影響）

演者：Y. Miki, M. Fue, K. Takagi, T. Suzuki, H. Sasano, K. Ito.

（下線は当研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野所属）

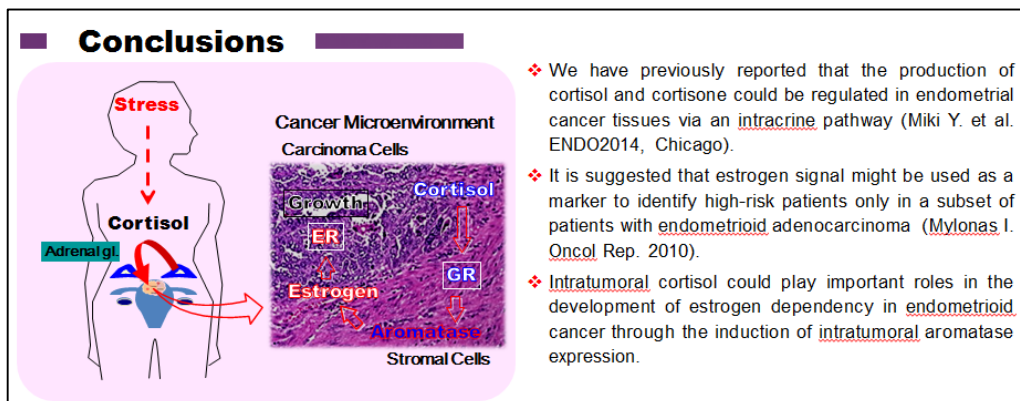
三木講師はストレスによって分泌されたコルチゾールと呼ばれるストレスホルモンが、子宮の悪性疾患である子宮内膜癌の組織中濃度が高いことを報告してきました。今回、そのストレスホルモンが女性ホルモンであるエストロゲンの生体内の量を調整しているアロマターゼという酵素の発現に参与していることを明らかにしました。この結果から、ストレスによって女性ホルモンのアンバランスを引き起こす可能性を示すことができ、さらにそのアンバランスによって様々な女性機能の不調が引き起こされるのではと考えられます。発表の際には、婦人科医のみならず、ストレスホルモン研究者、乳癌などの女性の癌の研究者らと意見交換をすることができ、ストレスホルモンと女性ホルモンのクロストークに関するディスカッションを行うことができました。



学会場



ポスター会場の様子



研究成果の概念図

文責：三木康宏（災害医学研究部門）